



CorelDRAW[®] GRAPHICS SUITE 2024

導入ガイド

内容

はじめに	3
段階 1: 展開の準備	5
ネットワークを理解する	5
ソフトウェアを理解する	6
ネットワークを設定する	8
段階 2: サーバー イメージの作成	9
サーバーイメージを作成する前に	9
基本イメージの作成	11
サーバーイメージの設定	11
サーバーイメージのファイナライズ	14
カスタマイズしたイメージの作成	15
複数のイメージの作成	15
段階 3: ソフトウェアのインストール	16
ソフトウェアのプル型配信	16
ソフトウェアのプッシュ型配信	17
セットアップファイルの指定	18
スイッチの使用	18
パブリックプロパティの使用	20
コマンドラインの実行	24
製品権限の使用	25
段階 4: インストールの保守	26
ソフトウェアの修復	26
ソフトウェアの変更	28
ソフトウェアの更新	29

ソフトウェアの削除.....	31
ソフトウェアのトラブルシューティング.....	32
macOS での CorelDRAW Graphics Suite の展開	33
ワークステーションの要件	33
必要なファイル	34
macOSでのソフトウェアの展開.....	34
付録 A: 特殊な展開方法.....	36
機能のカスタムセットの展開.....	36
機能名によるソフトウェア機能の指定.....	37
特定の言語の展開.....	38
ワークスペースの理解.....	40
MSI ファイルの操作.....	41
レジストリキーの操作.....	43
オフラインで利用できるようにコンテンツを構成する.....	45
セットアップファイルセットのカスタマイズ.....	47
カスタマイズされたファイルセットを使用したサーバーイメージの作成.....	48
カスタマイズされたインストール設定の展開.....	49
付録 B: ソフトウェアの認証	51
認証時の情報交換.....	51
認証の要件	51
付録 C: FAQ.....	53

はじめに

CorelDRAW[®] Graphics Suite を選んでいただきありがとうございます

このガイドでは、CorelDRAW[®] Graphics Suite をネットワーク展開する管理者をサポートします。



以下のトピックのほとんどは、Windows へのソフトウェアの展開に適用されます。macOSへのソフトウェアのインストールについては、「[macOSでのCorelDRAW Graphics Suiteの展開](#)」を参照ください。

オフラインモードでのソフトウェアの展開については、「[インターネット機能をオフにした状態での展開](#)」を参照ください。

内容

- 「段階1: 展開の準備」
- 「段階2: サーバーイメージの作成」
- 「段階3: ソフトウェアのインストール」
- 「段階4: インストールの保守」
- 「macOS での CorelDRAW Graphics Suite の展開」
- 「付録A: 特殊な展開方法」
- 「付録B: ソフトウェアの認証」
- 「付録C: FAQ」

規則

このガイドで使用されている次の規則に注意してください。

表記法

イタリック体のテキスト

太字の等幅テキスト

意味

パスやファイル名などのユーザー指定情報のプレースホルダー

プログラミング構文の参照

詳細情報

追加情報については、次を参照ください。

情報

Corel Corporation、または特定の Corel ソフトウェア製品

参照先

Corel の Web サイト:

www.corel.com

Corel ソフトウェアのサポート

Corel サポート サービスの

Web サイト:

www.corel.com/support

Corel ソフトウェアのインストールに使用される Microsoft
Windows インストーラー (MSI) テクノロジ

Microsoft の Web サイト

段階 1: 展開の準備

展開を開始する前に、時間をかけてネットワークと展開するソフトウェアについて理解を深めてください。そうすることで、業務をスムーズに行えます。

この段階の説明内容:

- 「ネットワークを理解する」
- 「ソフトウェアを理解する」
- 「ネットワークを設定する」

注目ポイント

- 「サーバーの要件」
- 「ワークステーションの要件」

ネットワークを理解する

展開のネットワーク要件を必ず考慮してください。

管理上の要因

組織(または管理者)におけるソフトウェアの展開と保守に関する特定の要件

サーバー要因

サーバーの特別な特性や制約

ワークステーションの要因

ワークステーションの特別な特性や制約

ユーザー要因

ワークステーションユーザーには特別なワークフロー

ソフトウェアを理解する

サーバーとワークステーションがソフトウェアの対象であることを確認してください。組織でドキュメント管理システム (DMS) を使用している場合は、ソフトウェアでサポートされていることを確認します。

サーバーの要件

CorelDRAW Graphics Suite のイメージは、次の要件を満たすサーバー上に作成できます。

- 最新の Service Pack と重要な更新プログラムが適用されたオペレーティングシステム: Windows Server 2022
- 4.3 GB のサーバー容量 (追加コンテンツなしの標準的なインストールの場合)

サポートされているサーバー オペレーティングシステムは、リモート デスクトップ サービス (RDS) (旧称 Windows ターミナルサーバー) をサポートしていますが、次の点に注意してください。

- サーバーにソフトウェアをインストールするには、Corel が提供する CorelDRAW Graphics Suite ISO ファイルを使用する必要があります。
- Corel Corporation は、製品に含まれるサードパーティ製ソフトウェアのインストールに関するテクニカル サポートを提供していません。
- リモート デスクトップ仮想化を使用して CorelDRAW Graphics Suite をサーバーに導入する場合は、次の点に注意してください。
 - 管理者としてアクセスする場合、サーバー上の Web ブラウザーのセキュリティ設定により、ようこそ画面を使用できない場合があります。既定では、一部の Web ブラウザーでは [セキュリティ強化の構成] 設定が有効になっています。ようこそ画面を正常に機能させるには、無効にする必要があります。
 - 既定では、ハードウェアアクセラレーションは有効になっています。仮想化環境では、ユーザーは [ハードウェア アクセラレーションを使用する] チェック ボックス ([ツール] > [オプション] > [グローバル] > [全般] ページ) を無効にしてオフにする必要があります。ハードウェア アクセラレーションは、レジストリ キー を 0 に設定することで無効にすることもできます。[HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Corel\CorelDRAW\25.0\Box Preferences\GlobalOptions GeneralTab] "GPUAcceleration"="0"]

サーバーのアクセス許可の詳細については、「[サーバーのセットアップ](#)」を参照ください。

ワークステーションの要件

CorelDRAW Graphics Suite は、次の要件を満たすワークステーションにインストールできます。

- Windows 11 または Windows 10 (バージョン 21H2 以降)、64 ビット、最新の更新プログラムを適用していること
- OpenCL 1.2対応ビデオカード(3+ GB VRAM搭載)(推奨)
- Intel Core i3/5/7/9 または AMD Ryzen 3/5/7/9/Threadripper、EPYC
- 8GBのRAM
- 5.5 GB のハード ディスク空き容量 (アプリケーション ファイルとインストール ファイル用)
- マルチタッチスクリーン、マウス、タブレット
- 1280 x 720 の画面解像度、100% (96 dpi)
- 最適なパフォーマンスを得るには、製造元から提供された最新のデバイス ドライバーを使用していることを確認してください。

- CorelDRAW Graphics Suite をインストールして認証し、付属のソフトウェア コンポーネント、オンライン機能、およびコンテンツの一部にアクセスするには、インターネット接続が必要です。
- Microsoft Edge Web コントロールである WebView2 は、CorelDRAW.app と [コメント] ドッキングウィンドウを使用するために必要です。このコントロールがワークステーションにない場合は、展開中にインストールされます。

ワークステーションの権限の詳細については、「[ワークステーションのセットアップ](#)」を参照ください。

ソフトウェア

CorelDRAW Graphics Suite アプリケーションは、ダウンロード可能な ISO ファイルとして入手できます。



ISO ファイルを使用するには、次のいずれかの操作を行います。

- ISO ファイルを仮想ドライブとしてマウントします。
- WinZip®またはその他のサードパーティソフトウェアを使用してISOファイルの内容を抽出します。

必要に応じて、共有ドライブから他のコンテンツをダウンロードできます。このコンテンツには、Corel® AfterShot™ HDR、画像 (ベクターファイルおよび写真)、塗りつぶし、フォント、テンプレートが含まれます。

CorelDRAW Graphics Suite の既定 インストールでは、塗りつぶしと透明度の数が限られているため、[塗りつぶし] フォルダーに含まれている塗りつぶしパックをダウンロードしてインストールすることが重要です。

詳細については、「[サーバーのセットアップ](#)」を参照ください。



トレーニングビデオはダウンロードできませんのでご注意ください。ヒントのビデオやその他のビデオには、CorelDRAW の YouTube チャンネル、または CorelDRAW® や Corel PHOTO-PAINT™ の [ようこそ] 画面からアクセスできます。

詳細情報

ソフトウェアのインストールと使用に関する重要な注意事項については、ソフトウェアの Readme ファイルを確認することをおすすめします。

インストール ディスクの英文 Readme ファイルにアクセスするには

- 次のコマンドラインを実行します (X: はディスク ドライブです)。

```
X:\ReadMes\EN\Readme.html
```



他の言語の Readme ファイルには、DVD またはソフトウェア ISO のそれぞれの言語フォルダーからアクセスできます。例：

- X:\ReadMes\DE\Readme.html
- X:\ReadMes\FR\Readme.html
- X:\ReadMes\JP\Readme.html

ネットワークを設定する

ネットワークとネットワークに展開するソフトウェアについて理解したら、それに応じてネットワークを設定できます。

サーバーのセットアップ

次の手順を実行します。

- 自分がローカル管理者であるか、管理しているドメインとワークグループの管理者であることを確認します。
- サーバーイメージの共有ネットワークの場所を作成し、その場所への読み取り/書き込みアクセス権があることを確認します。
- インターネットにアクセスできることを確認してください。

オフライン ネットワーク環境でワークステーション ユーザーが追加のコンテンツ (クリップアート、写真、塗りつぶしなど) を使用できるようにするには、次の操作を行います。

- 共有ネットワークの場所を設定し、ユーザーがその場所にアクセスできることを確認します。
- 追加コンテンツを含む共有ドライブにリンクするURLが記載された資格証明書の確認メールが届きますので、ダウンロードしてください。ダウンロード可能なコンテンツの一部は Zip ファイルで構成されており、WinZip または別の圧縮ツールを使用して共有ネットワークの場所に展開する必要があります。



展開されるコンテンツは 4.87 GB です。

ワークステーションのセットアップ

次のことを確認してください。

- あなたと、ソフトウェアをインストールする他のユーザーは、管理しているドメインとワークグループのローカル管理者または管理者のいずれかであること。
- あなたと、ソフトウェアをインストールする他の誰もが、サーバーイメージの場所への読み取りアクセス権を持っていること。

グループポリシー オブジェクト(GPO)

ワークステーション ユーザーのアクセス権をより簡単に管理するには (とくにプル型配信の場合)、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) の使用を検討ください。詳細については、Microsoft から入手できるグループ ポリシーのソフトウェア開発キット (SDK) を参照ください。



段階 2: サーバーイメージの作成

展開の準備ができれば、サーバーイメージを作成する準備が整います。

イメージを作成するには、セットアップを初期化する必要があります。セットアップUIで設定を変更することで、カスタマイズされたイメージを作成できます。複数のインストールタイプをサポートする場合は、複数のサーバーイメージを作成できます。

この段階の説明内容:

- 「サーバーイメージを作成する前に」
- 「基本イメージの作成」
- 「複数のイメージの作成」

注目ポイント

- 「セットアップの初期化」
- 「サーバーイメージの設定」
- 「サーバーイメージのファイナライズ」

サーバーイメージを作成する前に

Corel.com アカウント

管理インストールを実行する前に、corel.com アカウントが必要です。corel.com アカウントをお持ちでない場合は、coreldraw.com で、[サインイン] (ページの右上) をクリックします。サインイン ページで [アカウントの作成] をクリックし、手順に沿って操作します。



corel.com アカウントを作成するときは、サービスの中断を避けるために、アカウントの作成に使用したメールアドレスに送信されたメールを検証します。サーバーイメージを作成するために最初にサインインするときに使用されるアカウント資格情報 (電子メールアドレスとパスワード) は、今後のサインインで認識される唯一のアカウント資格情報です。最初に使用した資格情報をメモします。アカウント名には情報システム部門のメールアドレスを使用することをおすすめします。

お客様には、資格証明書の証明メールが届きます。これは購入の証明として機能し、永久ライセンスのソフトウェアダウンロード番号とシリアル番号に直接アクセスできます。また、サブスクリプションライセンスを Corel.com 顧客アカウントにインポートする手順も記載されています。

オフラインモードとオンラインモード

一部の企業環境では、インターネット接続と製品認証を必要とする製品機能にアクセスせず、ユーザーはオフラインモードでソフトウェアを使用することがあります。インターネットを使用した機能には次が含まれます。

- ようこそ画面と、CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT の [学習] ドッキングウィンドウの [探索] タブ からアクセス可能なビデオやその他のオンライン コンテンツ
- ようこそ画面またはソフトウェア内の他のアクセスポイントからの製品内購入
- QRコード
- オンラインヘルプ
- Corel Cloud へのアクセス

インターネット機能および製品アップデートへのアクセスを制限するには、サーバーイメージを作成するための特別なシリアル番号が必要です。このセットアップでは、ソフトウェアがオフラインモードでワークステーションに展開されます。詳細については、「インターネット機能をオフにした状態での展開」を参照ください。

インターネット機能へのアクセスが制限されている場合でも、ユーザーが Corel Cloud でファイルを共有し、組織内で CorelDRAW.app™ または CorelDRAW.app Enterprise と共同作業することを許可できます。詳細については、「ALLOW_CORPORATECLOUDFEATURES」を参照ください。

オンラインモードでは、ワークステーションユーザーはすべてのインターネット機能と製品アップデートにアクセスできます。

CorelDRAW.app および CorelDRAW.app Enterprise

[コメント] ドッキングウィンドウや [クラウドに保存して共有] などのコラボレーション機能にアクセスするには、ユーザーは CorelDRAW.app または CorelDRAW.app Enterprise にサインインする必要があります。

CorelDRAW.app にサインインする

ユーザーが CorelDRAW から Corel Cloud にはじめてアクセスすると、Corel アカウントに関連付けられた電子メールとパスワードを使用して CorelDRAW.app にサインインするように求められます。これは CorelDRAW の既定のサインイン オプションです。

CorelDRAW.app Enterprise へのサインイン

このサインイン オプションを使用すると、ユーザーは個人の企業 Microsoft 365 または G Suite アカウントを使用して CorelDRAW.app Enterprise にサインインできます。次の要件に注意してください。

- このオプションは、エンタープライズ サブスクリプションのシリアル番号または長い企業シリアル番号 (C- の接頭辞付き) を使用する CorelDRAW Graphics Suite のインストールでのみ使用できます。
- 顧客の会社のドメインは、CorelDRAW.app Enterprise アクセス用に登録する必要があります。
- 顧客の会社のドメインは、Microsoft 365 (Azure) または Google Workspace で管理する必要があります。Microsoft 365 または

Google Workspace ユーザー アカウントでサインインするには、シングルサインオン (SSO) を使用します。

このサインイン オプションは、パブリック プロパティを使用してユーザーに対して有効にできます。詳細については、「CDAENTERPRISEACCESS」を参照ください。

基本イメージの作成

基本的なサーバーイメージを作成するには、セットアップを初期化する必要があります。イメージを設定し、必要に応じて調整したら、展開に使用できます。



ソフトウェアがまだインストールされていないコンピューターでサーバーイメージを作成してください。

このセクションの内容

- 「セットアップの初期化」
- 「サーバーイメージの設定」
- 「サーバーイメージのファイナライズ」

セットアップの初期化

- サーバーイメージを作成するためのセットアップを初期化するには、コマンドラインを使用します。サーバーイメージバー・イメージを作成できます。



次のコマンドラインを使用すると、セットアップUI全体を初期化し、基本的な64ビットサーバーイメージを作成できます。

- `X:\x64\Setup.exe /a`

イベントログ

インストールイベントのログファイルを作成する場合は、コマンドラインに `/L` スイッチを含めます。このスイッチの詳細については、「[/L-イベントログ](#)」を参照ください。

サーバーイメージの設定

`/a` コマンドラインが成功すると、セットアップは次の2つの方法のいずれかで初期化されます。

- フル機能のUIとインターネット機能有効—これは既定の導入オプションで、ワークステーションをオンラインモードで動作させることができます。インターネット機能は有効になっており、オフにすることはできません。
- フル機能のUIとインターネット機能無効—特別なシリアル番号が必要で、ワークステーションをオフラインモードで動作させることができます。



`/q (n)` スイッチを使用して、セットアップUIが制限されたサーバーイメージを作成することはできなくなりました。

Windowsの共有機能の使用機能はインターネットベースです。インターネット機能が有効になっている場合、Corelは機能の使用状況を追跡し、この情報を使用してアプリケーションを改善します。

フルセットアップUI

セットアップUIでは、サーバーイメージの設定プロセスについて順を追って説明します。

UI コンポーネント	特記事項
ビジネス ユーザー ライセンス契約 (BULA)	サーバーイメージを作成するには、組織を代表してビジネスユーザーライセンス契約に同意する必要があります。イメージから展開されたインストールでは、ユーザーに使用許諾契約書の確認を求めるプロンプトは表示されません。
シリアル番号、メールアドレス、パスワード ライセンス証書には、必要なシリアル番号が記載されており、サーバーイメージの作成時に使用した corel.com アカウントに割り当てられます。詳細については、「サーバーイメージを作成する前に」を参照ください。	サーバーイメージを作成し、インターネットベースの機能や製品アップデートにアクセスするには、有効なシリアル番号と corel.com アカウント情報(メールアドレスやパスワードなど)が必要です。
Profile ID	Profile ID は、サーバー イメージを作成するために必要です。
イメージの保存場所	表示されたボックスにフルパス(UNC)を入力するか、[変更] をクリックして、その場所を参照します。インストールの問題を回避するには、パスを 89 文字に制限します。
インターネット 機能を有効にして展開する	この既定の展開オプションは、インターネット機能が自動的に有効になるように構成されます。ワークステーションのユーザーは、QR コード、機能の使用状況の共有 (Windows のみ)、オンラインヘルプなどのインターネットベースの機能にアクセスできます。 インターネット機能を無効にしてインストールするには、特別なシリアル番号が必要です。詳細については、「インターネット機能をオフにした状態での展開」を参照ください。
製品アップデート	次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none">•製品を自動的に更新する•更新プログラムを確認し、ユーザーがインストールするタイミングを選択できるようにする•更新を確認しないでください。 これらのオプションには、corel.com アカウントのユーザー資格情報を入力した後にのみアクセスできます。

<p>ようこそ画面</p>	<p>ワークステーションがオフラインモードまたはオンラインモードでようこそ画面にアクセスできるようにすることを選択できます。</p> <p>ようこそ画面がオフラインモードの場合、ユーザーはアイテムをダウンロードして購入したり、ビデオやその他のオンラインコンテンツにアクセスしたりすることはできません。</p>
<p>企業内ユーザーでのファイル共有とコラボレーションを実現</p>	<p>このチェックボックスをオンにすると、企業ユーザーは CorelDRAW.app、コメント ドッキングウィンドウと Corel Cloud にアクセスできます。プロパティーを使用してこのタスクを実行する方法については、「ALLOW_CORPORATECLOUDFEATURES」を参照ください。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、ユーザーに CorelDRAW.app Enterprise へのアクセス権を付与し、ユーザーが自分の企業アカウントで [コメント] ドッキングウィンドウにサインインできるようにできます。プロパティーを使用してこのタスクを実行する方法については、「CDAENTERPRISEACCESS」を参照ください。</p> <p>使用可能なサインインオプションの詳細については、「CorelDRAW.app および CorelDRAW.app Enterprise」を参照ください。</p>

サーバーイメージを作成して展開するには、DR25C22 (サブスクリプションの場合) で始まり、37 文字 (ダッシュを含む) のシリアル番号を使用する必要があります。シリアル番号の文字数が少ない場合は、ソフトウェア展開に有効なシリアル番号ではありません。

プロファイルを認証できるように、サーバーイメージを作成するときはオンラインである必要があります。オンライン時に Corel.com アカウントに関連付けられているメールアドレスとパスワードを入力すると、Profile ID が生成され、ユーザーは自動的にサインインできます。

インターネット機能をオフにした状態での展開

ワークステーションをオフラインモード(インターネット機能無効)で動作させるサーバーイメージを作成するには、DR25CKV で始まる特別なシリアル番号を使用する必要があります。この特別なシリアル番号は、offlinedeploy@mysupport.corel.com に電子メールを送信して要求します。メールに次の情報が含まれていることを確認してください。

- Corel ライセンスの注文番号(ライセンスの注文確認メールに記載されています)
- CorelDRAW 製品のシリアル番号(ライセンス注文確認メールに記載されている「ライセンス キー」)
- Corel カスタマーアカウントのユーザー名(電子メールアドレス)

インターネット機能をオフにしてサーバーイメージを作成するためのフルセットアップUIには、「フルセットアップUI」にリストされているすべてのコンポーネントが含まれています。

ただし、インターネット機能をオンにして展開する場合を除きます。追加のUIコンポーネント(インターネット機能)があります。既定では無効になっていますが、有効にできます。

サーバーイメージのファイナライズ

この項では、サーバーイメージから展開する前に実行しておく推奨手順について説明します。



必要に応じて、次の方法でイメージをファイナライズできます。

- 展開するレジストリ設定をカスタマイズします(「レジストリキーの操作」を参照)。
- セットアップファイルセットをカスタマイズします(「セットアップファイルセットのカスタマイズ」を参照)。



ソフトウェアを2回展開しないようにするには、ソフトウェア更新プログラムを確認し、必要に応じてイメージに適用します。詳細については、「ソフトウェアの更新」を参照ください。

イメージのテスト

完成したイメージを組織全体に展開する前に、数台のワークステーションでテストすることをおすすめします。

サーバーイメージの移動

サーバーイメージの作成後にサーバーイメージの場所を変更するには、イメージを新しい場所にコピーします。ただし、ソフトウェアをワークステーションに展開した後は、イメージを移動できません。

カスタマイズしたイメージの作成

コマンドラインスイッチ(「[スイッチの使用](#)」を参照ください)およびパブリックプロパティ(「[パブリックプロパティの使用](#)」を参照ください)によって提供されるよりもカスタマイズされたサーバーイメージが必要な場合は、「[付録A:特殊な展開方法](#)」で説明されている特殊なシナリオを検討してください。

レジストリキー

サーバーイメージのレジストリ設定を編集できます。「[レジストリキーの操作](#)」を参照ください。

セットアップファイルセット

セットアップファイルセットをカスタマイズできます。「[セットアップファイルセットのカスタマイズ](#)」を参照ください。

インストール設定

ワークステーションへのソフトウェアのインストールに使用する設定をカスタマイズできます。「[カスタマイズされたインストール設定の展開](#)」を参照ください。

複数のイメージの作成

ワークステーションで異なるソフトウェア構成が必要な場合は、インストールタイプごとにひとつのサーバーイメージを作成できます。

製品アップデート

製品アップデートが利用可能になったら、各サーバーイメージに適用する必要があります。イメージのパッチ適用の詳細については、「[イメージのパッチ適用](#)」を参照ください。

命名規則

サーバーイメージを互いに区別しやすい命名規則を使用します。

段階3:ソフトウェアのインストール

サーバーイメージを作成したら、次の2つの方法のいずれかで、そのイメージを使用してワークステーションにソフトウェアをインストールできます。

- 手動でユーザーにソフトウェアを自分のワークステーションに「プル型配信」させます
- 自動的にユーザーに代わってソフトウェアをワークステーションに「プッシュ型配信」させます

このセクションの内容

- 「ソフトウェアのプル型配信」
- 「ソフトウェアのプッシュ型配信」

注目ポイント

- 「スイッチの使用」
- 「パブリックプロパティの使用」

ソフトウェアのプル型配信

ユーザーがサーバーへのアクセス権とワークステーションに対する管理者レベルの権限の両方を持っている場合、ユーザーは自分でソフトウェアをインストール(または「プル型配信」)できます。これを行うには、サーバーイメージからセットアップを実行します。

このセクションの内容

- 「プル型配信インストールの準備」
- 「プル型配信インストールの実行」

プル型配信インストールの準備

プル型配信インストール プロセスをできるだけスムーズに実行するために、時間をかけて準備してください。

必要条件

- 各ワークステーションがソフトウェアの最小要件を満たしていることを確認します(「ワークステーションの要件」を参照ください)。
- 各ワークステーションユーザーがサーバーイメージへの読み取り専用アクセス権とワークステーションへの管理者レベルのアクセス権を持っていることを確認します(「ワークステーションのセットアップ」も参照ください)。

推奨事項

ワークステーションをサーバーイメージにマッピングし、起動時にそのサーバーにログインするようにワークステーションを設定します。これにより、ユーザーは常にサーバーイメージに接続されます。

プル型配信インストールの実行

ユーザーは、サーバーイメージからセットアップを実行して、ソフトウェアをワークステーションにプル型配信します。



セットアップに必要なユーザー操作の程度は、サーバーイメージと展開プロセスのカスタマイズ方法によって異なります。



ユーザーによるカスタマイズを制限する場合は、複数のサーバーイメージ(インストールオプションのセットごとに1つ)を提供できます。詳細については、「段階3:ソフトウェアのインストール」を参照ください。

ソフトウェアをワークステーションにプル型配信するには

1. サーバーイメージの場所を参照し、「Setup.exe」をダブルクリックします。
2. 画面の指示にしたがって、必要なオプションを指定してインストールを実行します。



インストールの問題を回避するには、インストールパスを 89 文字に制限します。

ソフトウェアのプッシュ型配信

サーバーイメージからワークステーションにソフトウェアを「プッシュ配信」するには、次の内容を含むコマンドラインを記述する必要があります。

- 使用するセットアップのファイル名
- セットアップの実行方法を制御するための任意のスイッチ
- インストール設定を指定するための任意のパブリック プロパティ例: `Setup.exe /q`

このコマンドラインを使用すると、サポートされている任意のプッシュ配信の方式を使用し、ワークステーションにソフトウェアをインストールできます。



サーバーイメージをワークステーションにプッシュ配信する場合は、管理者レベルの権限でセットアップを実行する必要があります。



[インターネットのプロパティ] ダイアログ ボックス ([Windows の [コントロール パネル] > [インターネット オプション] >

[セキュリティ] タブ) で [このゾーンのセキュリティ レベル] が [高] に設定されている場合、CorelDRAW Graphics Suite のインストール ダイアログ ボックスにテキストは表示されません。この設定は、以下の手順でテキストが表示されるように変更できません。

Web ブラウザーのセキュリティ設定を変更するには

1. Windows の [コントロールパネル] で、[ネットワークとインターネット] をクリックします。
2. [インターネット オプション] をクリックします。
3. [セキュリティ] タブをクリックします。
4. [レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックします。
5. オプションの [スクリプティング] リストで、[アクティブ スクリプティング] の [有効] オプションを有効にします。
6. [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックします。

このセクションの内容

- 「セットアップファイルの指定」
- 「スイッチの使用」
- 「パブリックプロパティの使用」
- 「コマンドラインの実行」

セットアップファイルの指定

コマンドラインで指定するもっとも重要な項目は、セットアップの実行可能ファイル(使用するサーバーイメージ上の Setup.exe ファイル)です。

- `\\サーバー名\パス\x64\Setup.exe` — 64ビット版のソフトウェアを64ビットオペレーティングシステムにプッシュ配信します。

 パスにスペースが含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。

- `"\\サーバー名\スペースを含むパス\Setup.exe"`

スイッチの使用

コマンドラインでスイッチを使用すると、セットアッププロセスを制御できます。このセクションには、ソフトウェアのインストール時に一般的に使用されるスイッチを示します。

Microsoft Windows インストーラーのすべてのコマンドライン スイッチの一覧については、Microsoft の Web サイトを参照ください。

IL - イベント ログ


インストール イベントをログに記録するには、IL を使用します。

パラメーター	ログに記録される内容
i	ステータス メッセージ
w	致命的でない警告
e	すべてのエラーメッセージ
a	開始されたアクション
r	アクション固有のレコード
u	ユーザーの要求
m	メモリ不足の警告または致命的な終了に関するエラーメッセージ
o	サーバーへのインストールでハードディスク容量が不足した場合のエラーメッセージ
P *	ターミナルのプロパティ 上記のすべてを1つのログ ファイルにまとめます
V	注: /L* の代わりに、/log を使用することもできます。 非常に詳細な情報

/Lの既定のパラメーターは **iwearmo** です。

ログ ファイルのパスを指定する場合は、次の構文を使用します。

```
/l "C:\Logs\My_Log.txt"
```

 パスとファイル名を指定しない場合、ログ ファイルは現在のユーザーの一時 (Temp) フォルダーに作成されます。次の例では、/L スイッチ (既定のパラメーターを使用) を使用して、指定したファイルにインストール イベントを記録します。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe /l "C:\Logs\My_Log.txt"
```

/q- サーバー イメージをワークステーションにプッシュ配信

/q を使用して、ソフトウェアをワークステーションにプッシュ配信できます。

/q を使用すると、ユーザーが自分の登録情報を入力できないようにしたり、特定のインストール オプションを適用したり、サイレント インストール (セットアップ UI がまったく表示されない) を実行したりできます。

パラメーター	インストール中にユーザーに表示される内容
n	UIは一切ありません。エラーは、制御可能なファイルに記録されます /E を使用します (「/L- イベント ログ」を参照)。これは既定のパラメーター です。

b	注: /qn の代わりに /quiet を使用できます。 基本的な UI: プログレスバーと キャンセル ボタン。ユーザーが[キャンセル] ボタンをクリックすると、確認時にインストールがロールバックされます。 注: /qb の代わりに、/passive を使用することもできます。
b!	基本 UI: 進行状況バーのみ。ユーザーはインストールをキャンセルできません。
b+	基本的な UI: プログレスバーと キャンセル ボタン。ユーザーが [キャンセル] ボタンをクリックすると、インストールがロールバックされます (最初に確認を求めるプロンプトは表示されません)。
r	簡易UI: 進行状況バーと、インストールに関する情報。 ユーザーはインストールを取り消すことができます。 注: ワークステーションで実行する場合、このパラメーターを指定したコマンド行は、必要なコンポーネントを自動的にインストールします。
f	フルUI

/q の既定のパラメーターは n になります。

次の例では、すべてのセットアップUIが抑制され、指定されたログファイルにエラーが記録されます。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe /q /l "C:\Logs\My_Log.txt"
```

/?-ヘルプ

/? スイッチ(または /help)は、セットアップのヘルプを表示します。

パブリックプロパティの使用

コマンド行でパブリックプロパティを使用して、インストール設定を指定できます。このセクションのアルファベット順にリストされているのは、ソフトウェアのインストール時に一般的に使用されるプロパティです。

Microsoft Windows インストーラーのすべてのコマンドライン プロパティの一覧については、Microsoft の Web サイトを参照ください。

ADDLOCAL: 特定のコンポーネントのインストール

このシナリオの詳細については、付録の次のトピックを参照ください。

- [「機能のカスタムセットの展開」](#)
- [「特定の言語の展開」](#)

ALLOW_CORPORATECLOUDFEATURES: コラボレーション機能の設定を指定する

ALLOW_CORPORATECLOUDFEATURES プロパティを使用すると、ユーザーは [コメント] ドッキング ウィンドウにサインインして、インターネット機能がオフになっている場合でもファイルを共同編集できます。たとえば、ユーザーはファイルにコメントを追加し、レビューのためにファイルを Corel Cloud にアップロードし、CorelDRAW.app でレビューしたファイルをクラウドから開くことができます。ユーザーは、アセットドッキングウィンドウからクラウドに署名して、クラウドアセットを表示およびリンクすることもできます。

コラボレーション機能へのアクセスを許可するには、次のプロパティを使用します。

ALLOW_CORPORATECLOUDFEATURES=1

このプロパティを指定しない場合、コラボレーション機能がオンになり、ユーザーは CorelDRAW.app、Corel Cloud、および [コメント] ドッキングウィンドウを使用してファイルを共同編集できます。

コラボレーション機能とクラウドへのアクセスを制限するには、次のプロパティを使用します。

ALLOW_CORPORATECLOUDFEATURES=0



コラボレーション機能は、インストール後にオンまたはオフにすることはできません。

コラボレーション機能がオンの場合、CDAENTERPRISEACCESS プロパティを使用して、ユーザーに CorelDRAW.app Enterprise へのアクセス権を付与できます。詳細については、「CDAENTERPRISEACCESS」を参照ください。

ALLOW_PRODUCTUPDATES: 製品更新の設定の指定

次のプロパティを使用すると更新プログラムを確認し、ユーザーがインストールするタイミングを選択できるようにできます。

ALLOW_PRODUCTUPDATES=0

次のプロパティを使用すると、製品を自動的に更新する (および製品内メッセージングを許可する) ことができます。

ALLOW_PRODUCTUPDATES=1

自動更新 (および製品内メッセージング) をオプトアウトするには、次のプロパティを使用します。

ALLOW_PRODUCTUPDATES=2



製品更新プログラムの既定の設定は、管理者が資格情報を使用してサインインするかどうかに基づいています。

管理者がサインインしない場合、**ALLOW_PRODUCTUPDATES=2** が既定値であり、あとで変更することはできません。

管理者が基本サーバーイメージを作成する前に資格情報を入力するか、コマンドラインで ProfileID を指定すると、

ALLOW_PRODUCTUPDATES=1 が既定値ですが、あとで変更できます。

CDAENTERPRISEACCESS: Windows 上の CorelDRAW.app Enterprise へのアクセスの許可

CDAENTERPRISEACCESS プロパティを使用すると、ユーザーに CorelDRAW.app Enterprise へのアクセス権を付与し、ユーザー

が自分の Microsoft 365 または G Suite 企業アカウントを使用してクラウドにサインインできるようにできます。

CDAENTERPRISEACCESS=1

CorelDRAW.app Enterprise へのアクセスを制限するには、次のプロパティを使用します。

CDAENTERPRISEACCESS=0



CDAENTERPRISEACCESS プロパティの既定値は 0 であるため CorelDRAW.app Enterprise へのアクセスは制限されます。CDAENTERPRISEACCESS の値は、Persist.xml で変更することもできます。また、サーバーイメージの作成時に CDAENTERPRISEACCESS プロパティを設定することもできます。

DESKTOPSHORTCUTS: デスクトップショートカットの設定の指定

デスクトップショートカットを作成しないようにするには、次のプロパティを使用します。

DESKTOPSHORTCUTS=0

デスクトップショートカットを作成するには、次のプロパティを使用します。

DESKTOPSHORTCUTS=1



何も指定しない場合は、DESKTOPSHORTCUTS=1 が既定値です。

INSTALLDIR: インストールパスのカスタマイズ

サーバーイメージから展開する場合は、次のパブリックプロパティを使用すると、ソフトウェアのワークステーションインストールパスをカスタマイズします。

INSTALLDIR="パス"

このプロパティは、ワークステーションへのインストール時にのみ使用できます。



正常動作させるため、パスをバックスラッシュ (\) で終わらせないでください。

REBOOT: 再起動の処理

REBOOT プロパティは、以下のいずれかの値で、インストールのプロセスに必要な再起動を処理する方法を指定します。

値	機能
Force (または F)	インストール後に再起動するように求められます。セットアップ UI が非表示になっている場合、コンピューターはインストール後に自動的に再起動されます。 注: REBOOT=Force の代わりに、/forcerestart スイッチを使用することもできます。

<p>Suppress (または S)</p>	<p>インストール中に再起動を求めるプロンプトが表示されますが (必要な場合)、インストール後に自動的に再起動します。セットアップ UI が抑制されている場合、必要なすべての再起動が自動的に行われます。</p> <p>注: REBOOT=Suppress の代わりに、/promptrestart スイッチを使用することもできます。</p>
<p>ReallySuppress (または R)</p>	<p>インストール中およびインストール後の両方で、すべての再起動とすべての再起動プロンプトを抑制します。</p> <p>注: REBOOT=ReallySuppress の代わりに、/norestart スイッチを使用します。</p>

SERIALNUMBER: シリアル番号の指定

SERIALNUMBER プロパティは、インストールの際に使用するシリアル番号を指定するために使用されます。

SERIALNUMBER=<シリアル番号>

TARGETDIR: サーバーイメージの場所の指定

TARGETDIR プロパティは、サーバーイメージの目的の場所を指定するために使用されます。

TARGETDIR=<サーバーイメージを作成するパス名>

このプロパティは、サーバーイメージのインストール時にのみ使用できます。



正常動作させるためには、パスをバックスラッシュ (\) で終わらないでください。

USERNAME: ユーザー名の入力

インストールのユーザー名を入力するには、次のプロパティを使用します。

USERNAME="ユーザー名"



ユーザー名は 60 文字を超えることはできません。

WELCOMESCREENONLINE: ようこそ画面をオフラインモードまたはオンラインモードに設定する

このプロパティを使用すると、ようこそ画面をオフラインモードまたはオンラインモードに設定できます。ようこそ画面がオフラインモードの場合、ユーザーはアイテムをダウンロードして購入できません。ようこそ画面をオフラインモードに設定するには、次の構文を使用します。

WELCOMESCREENONLINE=OFF

WELCOMESCREENONLINE がオフに設定されていない場合、またはオフと異なるその他の値の場合、ようこそ画面はオンラインモードになります。ユーザーはアイテムをダウンロードして購入できます。



管理者がソフトウェアをオフラインで展開する場合、このプロパティはワークステーションのインストールには関係ありません。**WELCOMESCREENONLINE** は自動的にオフに設定されます。

WELCOMESCREENONLINE の値は、サーバーイメージのルートに保管されている Persist.xml ファイルで変更できます。インストール設定のカスタマイズの詳細については、「[カスタマイズされたインストール設定の展開](#)」を参照ください。

コマンドラインの実行

コマンドラインを使用して、次のいずれかを使用してソフトウェアをワークステーションにプッシュ配信できます。

- バッチファイル — 詳細については、Microsoft の Web サイトを参照ください
- GPO — 詳細については、グループ ポリシー SDK を参照ください

- サードパーティのプッシュ配信技術の詳細については、製造元のドキュメントを参照ください

多くの管理者にとって、サードパーティのプッシュ配信技術の使用が推奨される方法です。このセクションでは、このような技術の使用に関する一般的なガイドラインを示します。このような技術の使用法の詳細については、製造元のドキュメントを参照ください。

SCCM

この記事の執筆時点では、Corel は Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) のサポートを Microsoft Systems Management Server (SMS) コンポーネントに関してのみ確認しています。

SCCM の使用の詳細については、Microsoft の Web サイトを参照ください。

SMS

パッケージ定義ファイル(または「パッケージ」)を使用して「システムごと」にワークステーションに展開する場合、CorelDRAW Graphics Suite は Microsoft Systems Management Server (SMS) の使用をサポートします。

パッケージを最初から作成することも、CorelDRAW Graphics Suite に付属する既存の SMS ファイルから作成することもできます(インストールディスクまたはサーバーイメージの管理者フォルダー)。

SMS ファイルの使用の詳細については、Microsoft Systems Management Server のリソース キットを参照ください。



Microsoft の Web サイトに掲載されている推奨事項は、CorelDRAW Graphics Suite でテストされていないため、ユーザーの判断で使用する必要があります。

製品権限の使用

サイレント更新などの製品権限を利用するには、展開後にワークステーションがアプリケーションをはじめて起動するときにインターネットにアクセスできる必要があります。その後、ユーザーはオフラインで作業できますが、インターネットベースの機能にはアクセスできません。



企業ネットワークでソフトウェア認証を成功させるには、Corel 認証サーバーのアドレスである <https://iws.corel.com> へのアクセスを許可する必要があります。ポート番号は 443 で、特定のエンドポイントは <https://iws.corel.com/ipm> です。ユーザーは、サーバーイメージの作成時に corel.com アカウントの資格情報(電子メール アドレスとパスワード)を含めた場合、ボリュームライセンスの購入に関連付けられている corel.com アカウントに自動的にサインインします。これにより、製品権限を使用できるようになります。[corel.com の \[アカウント\] ページ](#)から特定のワークステーションを削除することを選択できます。以前にサインアウトしたワークステーションにサインインするには、アカウントの資格情報を入力する必要があります。

段階 4: インストールの保守

ネットワーク管理の重要な部分は、ワークステーションにインストールされているソフトウェアを保守することです。

この段階の説明内容:

- 「ソフトウェアの修復」
- 「ソフトウェアの変更」
- 「ソフトウェアの更新」
- 「ソフトウェアの削除」
- 「ソフトウェアのトラブルシューティング」

ソフトウェアの修復

ソフトウェアを修復すると、不足している(または破損した)コンポーネントをインストール(または再インストール)できます。ソフトウェアの一台のPCのインストールを修復するには、そのワークステーションのWindows コントロールパネルを使用して、コマンドラインを使用すると複数のワークステーションのインストールを修復します。

単一インストールの修復

Windows のコントロールパネルを使用して、一台のインストールを修復できます。

Windows のコントロールパネルでインストールを修復するには

1. Windows の [コントロールパネル] で、現在インストールされているプログラムの一覧を表示し、一覧からプログラムを選択します。
2. [アンインストール/変更] をクリックします。
3. [修復] オプションを有効にし、[修復] をクリックします。
4. 画面の指示にしたがいます。

複数のインストールの修復

コマンドラインを使用して、一度に複数のインストールを修復できます。

/f - 基本的な修復

- サーバーイメージ上の Setup.exe ファイルで /f スイッチを使用します。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe /f
```



パブリック プロパティで /f スイッチを使用することはできません。修復プロセスをより詳細に制御するには、REINSTALL と REINSTALLMODE プロパティではなく /f を使用します。

/f スイッチには、次のパラメーターがあります。

パラメーター	機能
p	不足しているファイルを再インストールします
o	不足しているファイルや現在のバージョンより古いファイルを再インストールします
e	不足しているファイルおよび現在のバージョンか新バージョンを再インストールします。
d	不足しているファイルや現在のバージョンと異なるファイルを再インストールします
a	すべてのファイルを再インストールします
u	必要なユーザー固有のレジストリ キーをすべて再インストールします。 HKEY_CURRENT_USER、HKEY_USERS
m	必要なすべてのコンピューター固有のレジストリ キーを再インストールします。 HKEY_LOCAL_MACHINE、HKEY_CLASSES_ROOT
s	既存のショートカットをすべて再インストールします
v	ソースファイルから実行し、ローカルパッケージを再キャッシュします

/f の既定のパラメーターは oums です。

REINSTALL と REINSTALLMODE

高度な修復

ソフトウェアの修復方法をより詳細に制御するには、REINSTALLパブリックプロパティとREINSTALLMODEパブリックプロパティを一緒に使用します。

プロパティ	機能
REINSTALL=ALL	すべてのプログラム機能を再インストールします。特定の機能のみを再インストールする場合(「機能のカスタムセットの展開」のリストを参照ください)、次の構文を使用します。 REINSTALL=機能
REINSTALLMODE=type	実行する再インストールの種類を指定します。この値のプロパティは、/f スイッチ同様なので、既定値は oums になります。

ソフトウェアの変更

ソフトウェアを変更すると、インストールするプログラムの機能を変更できます。一台のインストールであれば、そのワークステーションのWindowsコントロールパネルを使用して変更したり、コマンドラインを使用して複数のワークステーションインストールを変更したりすることもできます。

一台のインストールの変更

Windowsのコントロールパネルを使用して、一台のインストールを変更できます。

Windowsの[コントロールパネル]でインストールを変更するには

1. Windowsの[コントロールパネル]で、現在インストールされているプログラムの一覧を表示し、一覧からプログラムを選択します。
2. [アンインストール/変更]をクリックします。
3. 「変更」オプションを有効にし、「次へ」をクリックします。
4. 表示される指示にしたがいます。

複数のインストールの変更

コマンドラインを使用して、一度に複数のインストールを変更できます。

ADDLOCAL: 機能の追加

ADDLOCAL パブリック プロパティを使用して、プログラム機能を追加できます。

ADDLOCAL=機能

複数の機能の場合は、コンマと機能名の上にスペースを入れずに、コンマで区切られたリストを使用します。

ADDLOCAL=機能 1,機能 2

使用可能な機能のリストについては、「[機能のカスタムセットの展開](#)」を参照ください。

REMOVE: 機能の削除

REMOVE パブリック プロパティを使用して、プログラムの機能を削除できます。

REMOVE=機能

複数の機能の場合は、コンマと機能名の上にスペースを入れずに、コンマで区切られたリストを使用します。

REMOVE=機能1,機能2

使用可能な機能のリストについては、「[機能のカスタムセットの展開](#)」を参照ください。

ほぼすべてのフィーチャを追加し、いくつかのフィーチャのみを削除する場合は、ADDLOCAL パブリックプロパティを REMOVE パブリック プロパティと組み合わせて使用できます。詳細については、「[機能のカスタムセットの展開](#)」を参照ください。

アプリケーション言語も機能と見なされます。ADDLOCAL パブリックプロパティと REMOVE パブリックプロパティを使用して、アプリケーション言語を追加および削除できます。詳細については、「[特定の言語の展開](#)」を参照ください。

ソフトウェアの更新

Corel は、自社製品の Microsoft パッチ (MSP) ファイル(「パッチ」または「アップデート」とも呼ばれます)を定期的にリリースしています。更新プログラムをインストールすると、ソフトウェアを最新の状態に保つことができます。



このガイドでは、Patch.exe は更新プログラムのファイル名のプレースホルダーです。実際のファイル名は、更新ごとに異なります。

更新プログラムの検索

多くのネットワーク管理者は、Corel サポート サービスの Web サイト (www.corel.com/support) を監視することで、ソフトウェアを最新の状態に保っています。更新プログラムが利用可能になると、これらの管理者はそれをダウンロードし、パッチ適用プロセスを自分で実行します。



このガイドでは、 \\サーバー名\パス\Patch.exe は、ダウンロードしたパッチの場所とファイル名のプレースホルダーです。



ワークステーションユーザーにソフトウェアにパッチを適用させる場合は、使用可能なパッチの自動検出を有効にするようにサ

サーバーイメージを設定できます。詳細については、「サーバーイメージの設定」を参照ください。

更新プログラムの適用

更新を見つけてダウンロードしたら、それをサーバーイメージに適用し、更新されたイメージを使用してインストールされたソフトウェアにパッチを適用できます。

イメージのパッチ適用

サーバーイメージにアップデートを適用できます。まず、指定した場所にパッチ ファイルを抽出する必要があります。

指定した場所にパッチを抽出するには

- (既定の Temp フォルダではなく) 指定した場所にパッチを解凍するには、次のコマンドライン構文を使用します。

```
\\サーバー名\パス\Patch.exe /extract_all "C:\Extracted"
```



パッチを解凍したら、解凍したすべてのパッチファイルをサーバーイメージに適用してください。一部のパッチファイルのみを適用すると、インストールが正しく機能しなくなる可能性があります。

抽出したパッチファイルをサーバーイメージに適用するには

- パッチの実行可能ファイルと /a スイッチを含むコマンドラインを使用します。たとえば、パッチが C:\Extracted に展開された場合、コマンドラインは次のようになります。

```
C:\Extracted\Setup.exe /a
```

ワークステーションのパッチ適用

サーバーイメージを更新したら、更新をワークステーションに展開できます。

ワークステーションを更新するには

- 次のコマンドライン構文を使用します。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe REINSTALL =ALL
```



既定では、REINSTALLMODE=oums プロパティが適用されます。REINSTALLMODE=vdm を指定することもできます。

- `\\サーバー名\パス\Setup.exe REINSTALL=ALL REINSTALLMODE =vdm`

REINSTALL(およびREINSTALLMODE)の詳細については、「REINSTALLおよびREINSTALLMODE」を参照ください。

ワークステーションをサイレントに更新するには

- 次のコマンドラインを使用します。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe REINSTALL=ALL REINSTALLMODE =vdm /qn
```

ソフトウェアの削除

ネットワークからソフトウェアを削除できます。ソフトウェアをクリーンにアンインストールすることは、新しいバージョンにアップグレードするとき重要です。

イメージの削除

サーバーイメージの削除は自動化できません。代わりに、サーバーからイメージを手動で削除する必要があります。

イメージの削除を正しく行うには、削除するプログラムとその関連ファイルがワークステーションで現在使用されていないことを確認してください。



削除されたサーバーイメージを回復する唯一の方法は、セットアップを再実行して再作成することです。

イメージを使用するワークステーションがまだある場合は、サーバーイメージを削除しないでください。そうしないと、ユーザーはインストールを維持および変更できません。

サーバーからのソフトウェアの削除

リモート デスクトップ サービス (旧称 Windows ターミナル サーバー) を使用して、ユーザーがサーバーからアプリケーションを実行できるようにする場合は、ソフトウェアを削除する前に、すべてのユーザーがログオフしていることを確認してください。

ワークステーションからの削除

ワークステーションの Windows コントロールパネルを使用して一台のワークステーションから削除することも、コマンドラインを使用して複数のワークステーションから削除することもできます。

一台のワークステーションからの削除

Windows のコントロールパネルを使用して削除できます。

Windows の [コントロールパネル] でインストールを削除するには

1. Windows の [コントロールパネル] で、現在インストールされているプログラムの一覧を表示し、一覧からプログラムを選択します。
2. [アンインストール/変更] をクリックします。
3. [削除] オプションを有効にします。
4. ユーザーファイル (プリセット、ユーザーが作成した塗りつぶし、カスタマイズファイルなど) を削除する場合は、[ユーザーファイルの削除] チェックボックスをオンにします。
5. [削除] をクリックします。

Corel Graphics - Window Shell Extension と Ghostscript GPL についても同じ手順を繰り返します。

複数のインストールの削除

コマンドラインを使用して、一度に複数のインストールを削除できます。

/x - 基本的な削除

- /x スイッチ (または /uninstall スイッチ) を使用して、ソフトウェアを自動的に削除できます。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe /x
```

REMOVE と REMOVEUSERFILES

高度な削除

削除プロセスをより詳細に制御する場合は、次のパブリック プロパティを使用します。

プロパティ

機能

REMOVE=ALL

すべての機能を削除します (GPL Ghostscript と Windows Shell Extension を除く)

REMOVEUSERFILES=値

ユーザーファイルを削除するかどうかを指定します。

- 0 — 削除しない
- 1 — 削除する

REMOVE_GPL=1

GPL Ghostscript を削除

REMOVE_SHELLEXT=1

Windows シェル拡張機能を削除します

たとえば、GPL Ghostscript と Windows Shell Extension の両方をアンインストールする場合は次のコマンドを使用します。

```
\\サーバー名\パス\Setup.exe /x REMOVE_SHELLEXT=1 REMOVE_GPL=1
```

msiexec コマンドを使用して、GPL Ghostscript と Windows Shell Extension の両方をアンインストールすることもできます。

```
msiexec /i \\サーバー名\パス\msis\Setup_x64.msi REMOVE=ALL CHAINER_CMD="/qb REMOVE_SHELLEXT=1 REMOVE_GPL=1 "
```

ソフトウェアのトラブルシューティング

ソフトウェアに関する問題のトラブルシューティングについては、FAQ や記事のオンライン リポジトリである Corel® ナレッジベース (www.corel.com/knowledgebase) をご覧ください。



macOS での CorelDRAW Graphics Suite の展開

CorelDRAW Graphics Suite を macOS に展開する場合、セカンダリ ファイルを使用して構成できます。構成により、ソフトウェアの使用時にユーザーが認証のためにサインインを求められることがなくなります。

このセクションの内容

- 「ワークステーションの要件」
- 「必要なファイル」
- 「macOSでのソフトウェアの展開」

ワークステーションの要件

CorelDRAW Graphics Suite は、以下の最小システム要件を満たす macOS ワークステーションにインストールできます。

- macOS Sonoma (14)、macOS Ventura (13)、または macOS Monterey (12) (最新リビジョンを適用済み)
- Apple M1/2/3/Pro/MaxまたはマルチコアIntelプロセッサ
 - AVX2命令セットのサポートまたはAppleシリコン。Painterly Brush ツールには、2014年以降のIntel Macで利用できるAVX2のサポートが必要です。
- OpenCL 1.2対応ビデオカード(3+ GB VRAM搭載)
- 8 GBのRAM
- アプリケーションファイル用に3GBのハードディスク容量を利用できます(ソリッドステートドライブを推奨)。大文字と小文字を区別するファイルシステムはサポートされていません。
- 画面解像度 1280 x 800 (1920 x 1200 を推奨)
- マウスまたはタブレット
- CorelDRAW Graphics Suite をインストールして認証し、付属のソフトウェア コンポーネント、オンライン機能、およびコンテンツの一部にアクセスするには、インターネット接続が必要です。

必要なファイル

ワークステーションのプロセッサに応じて、次のディスクイメージファイルのいずれかを選択する必要があります。

- CorelDRAWGraphicsSuite_Intel.dmg — Intel チップを使用するワークステーション用のインストールパッケージである CorelDRAW Graphics Suite.pkg が含まれています。
- CorelDRAWGraphicsSuite_M1.dmg — M1チップを使用するワークステーション用のインストールパッケージであるCorelDRAW Graphics Suite.pkgが含まれています。

さらに、ソフトウェアを展開および構成するには、次のセカンダリファイルが必要です。

- Corporate_CDGS_Intel.pkg Intel チップを使用するワークステーションや、Corporate_CDGS_M1.pkg (M1 チップを使用するワークステーションの場合)。このファイルには、インストールスクリプトが含まれています。
- CorporateDeploy.plist ファイルを作成します。このリストでは、SN (シリアル番号) と ProfileID の2つの値がサポートされています。ProfileID へのアクセスについては、「ProfileID」を参照ください。

これらのセカンダリファイルは、<http://www.coreldraw.com/cdgs2022extras> のMac-Configurationフォルダーにあります。

macOSでのソフトウェアの展開

ソフトウェアは、次の手順を使用してワークステーションに構成および展開する必要があります。ソフトウェアのすべてのユーザーは、インストール場所にアクセスする必要があります。

macOS で CorelDRAW Graphics Suite を構成して展開するには

1. 必要なファイルをすべて同じ場所にコピーします。(「必要なファイル」を参照ください)。
2. テキストエディットなどのテキストエディターを使用して CorporateDeploy.plist ファイルを開き、製品のシリアル番号と ProfileID をファイルに入力します。ProfileID へのアクセスについては、「ProfileID」を参照ください。

次の例の SerialNumber 値と ProfileID 値は架空の値です。

```
<key>SerialNumber</key>
<string>DR25C22-XXXXX9X-XXX7XX7-XXX7X6X-X4XXX</string>
<key>ProfileID</key>
<string>0X0000XB00XX01XXXX000010000XX0X10X</string>
```

3. Corporate_CDGS_Intel.pkg ファイルあるいは Corporate_CDGS_M1.pkg ファイルを展開します (CorporateDeploy.plist と同じフォルダーにある必要があります)。
4. CorelDRAW Graphics Suite.pkg ファイルを展開します。



CorelDRAW グラフィックス Suite.pkg ファイルを展開する前に、Corporate_CDGS_[IntelあるいはM1].pkg ファイルを展開することが不可欠です。ターミナルを使用してファイルを展開する場合は、必要なファイルが配置されているフォルダーにターミナルがアクセスできることを確認してください。「システム環境設定」で、「セキュリティとプライバシー」をクリックします。[セキュリティとプライバシー] ダイアログボックスで[プライバシー] タブをクリックし、左側のペインで[ファイルとフォルダー]を選択します。右側のペインで、[ターミナル]までスクロールし、ファイルが配置されているフォルダーチェックボックスをオンにします。

トラブルシューティングのヒント

ソフトウェアを展開できない場合は、次のことを確認してください。

- インターネットに接続されているか。
- CorelDRAW Graphics Suite はワークステーションに未インストールであるか。
- シリアル番号と ProfileID の両方が CorporateDeploy.plist ファイルで正しく指定され、CorelDRAW Graphics Suite.pkg ファイルと同じ場所にコピーされているか。

CDAEnterpriseAccess

macOS での CorelDRAW.app Enterprise へのアクセスの許可

既定の展開オプションでは、ユーザーは CorelDRAW.app を使用してファイルを共同編集できます。CDAEnterpriseAccess キーを使用すると、スイートがワークステーションに展開された後 CorelDRAW.app ユーザーに Enterprise へのアクセス権を付与できます。

インストール中に、CDAEnterpriseAccess キーが /Library/Corel/CorelDRAW Graphics Suite 2024/CommonData/Registry の registry.xml に追加されます。既定では、CorelDRAW.app Enterprise へのアクセスは制限されているため、値は "0" に設定されます。

```
<value data="0" name="cdaenterpriseaccess" origname="CDAEnterpriseAccess" type="REG_SZ" />
```

CorelDRAW.app Enterprise へのアクセスを有効にするには、registry.xml のデータ値を "0" から "Enable" に変更する必要があります。

```
<value data="Enable" name="cdaenterpriseaccess" origname="CDAEnterpriseAccess" type="REG_SZ" />
```


付録 A: 特殊な展開方法

より特殊な展開方法が必要な場合、この付録の補足トピックが役立つかもしれません。

この付録の内容

- 「機能のカスタムセットの展開」
- 「特定の言語の展開」
- 「MSIファイルの操作」

機能のカスタムセットの展開

/q スイッチを使用して基本インストール、あるいはサイレント インストールを実行する場合（「/q - サーバー イメージをワークステーションにプッシュ配信する」を参照ください）、ADDLOCAL プロパティを REMOVE プロパティと共に使用して、インストールする機能のカスタム セットを指定できます。まず、ADDLOCAL を使用してすべてのフィーチャを含め、次に REMOVE を使用して除外するフィーチャを指定します。

```
ADDLOCAL=ALL REMOVE=機能 1,機能 2
```

たとえば、Corel PHOTO-PAINT と CAPTURE™ を除くすべての CorelDRAW Graphics Suite 機能をインストールする場合は、コマンドラインで次のプロパティを使用します。

```
ADDLOCAL=ALL REMOVE=PP,Capture
```

次の例に示すように、ひとつの機能を指定することも、コンマで区切られたコンポーネントのリストを指定することもできます。ただし、この方法は面倒でエラーが発生しやすいためおすすめしません。インストールする機能を誤って除外してしまう可能性があります。

```
ADDLOCAL=機能 ADDLOCAL=機能1,機能2
```



機能名では大文字と小文字が区別されます。

機能名によるソフトウェア機能の指定

CorelDRAW Graphics Suite コンポーネントは、MainApp の次の子機能に編成されています。

ソフトウェアコンポーネント	"MainApp" 子機能
CorelDRAW	Draw
Corel PHOTO-PAINT	PP
CAPTURE	CAPTURE
Corel® Font Manager	FontManager
Utilities	Utility
フィルターのインポート/エクスポート	Filter



本ソフトウェアの一部のエディションには、本項に記載されている特定の機能が含まれていません。

Utility

ユーティリティ (機能名 Utility) には、次の子機能が含まれます。

機能	「ユーティリティ」子機能
両面印刷ウィザード(両面印刷ジョブ用)	DupWiz
Visual Basic for Applications (VBA)	VBAFiles



Utilityを指定しても、その子機能は含まれません。必要なユーティリティを個別に指定する必要があります。

Windows シェル拡張機能は、ADDLOCAL パブリック プロパティを使用するときに子機能名を指定して追加または除外することはできません。Windows シェル拡張機能を除外するには、次の Dbm ノードを setup.xml から削除する必要があります。

- ShellExt.msi参照するノード
- 64BitKey.msi参照ノード

Corel AfterShot 3 HDR

Corel AfterShot 3 HDR は、ダウンロード可能な追加コンテンツとともに利用できます。Corel AfterShot 3 HDR を CorelDRAW、および Corel PHOTO-PAINT 内からダウンロードすることもできます。

Corel AfterShot 3 HDRは、RAWやJPEG写真を簡単に修正および強化し、バッチ処理ツールを使用して一度に1枚から数千枚の写真に調整を適用できるプロ仕様の写真編集アプリケーションです。このアプリケーションには、Corel PHOTO-PAINT の Camera RAW Lab から直接アクセスできるハイ ダイナミック レンジ (HDR) マージ モジュールが含まれており、異なる露出設定で撮影された同じシーンの 2 枚以上の写真を結合できます。HDRモジュールを使用すると、より広い色調範囲を実現して、息を呑むような画像を作成できます。

ローカルヘルプ

CorelDRAW、Corel PHOTO-PAINT、Corel Font Manager、CAPTURE、および Corel BARCODE WIZARD のローカルヘルプは、CorelDRAW Graphics Suite Applications ISO ファイルの MSI ファイルに含まれています。詳細については、「ローカルヘルプ」を参照ください。

ユーザーガイド

『CorelDRAW ユーザーガイド』および『Corel PHOTO-PAINT ユーザーガイド』には、製品の機能とツールに関する包括的な情報が記載されています。これらは、オンラインで入手できるヘルプのPDFバージョンであり、ヘルプホームページ(ヘルプ/製品ヘルプ)からアクセスできます。

『CorelDRAW® Graphics Suite クイック スタート ガイド』は、新規ユーザーがすぐに使い始めるのに役立ちます。[ヘルプ]-[クイックスタートガイド]をクリックするとアクセスできます。

その他の学習リソース

[短いヒント] は、[学習] ドッキングウィンドウ (Windows) と [学習] インスペクター (macOS) の [ヒント] タブにあり、ユーザーがツールボックスのツールを使い始めるのに役立ちます。

さらに、[学習] ドッキングウィンドウと [学習] インスペクターには [探索] タブがあり、ユーザーは使用可能なツールやオンラインチュートリアルを検索できます。ただし、[学習] ドッキングウィンドウの [探索] タブは、サーバーイメージの作成時に自動的に無効になるため、Windows 上のネットワーク インストールでは使用できません。

(macOS) 「学習」インスペクターの「探索」タブは無効にできないため、macOS でいつでもアクセスできます。

SharePoint 統合

Windows では、CorelDRAW を使用すると、ユーザーは Microsoft SharePoint などの組織のドキュメント管理システム (DMS) に直接アクセスして、CorelDRAW 内からドキュメントをすばやく取得して保存できます。CorelDRAW で組織の DMS を使用するには、ユーザーは Corel.com アカウントの認証情報ではなく、SharePoint の認証情報を使用して SharePoint にログインする必要があります。

ユーザーがオフラインで作業しているときでも、イントラネットにアクセスでき、SharePoint サーバーがローカルネットワークにインストールされていれば、ドキュメント管理機能を使用できます。

特定の言語の展開

/q スイッチを使用して基本インストールあるいはサイレント インストールを実行する場合 (「/q-サーバー イメージをワークステーションにプッシュ配信する」を参照ください)、ADDLOCAL プロパティを使用して、サポートするソフトウェア言語を指定できます。1 つの言語を指定できます。

ADDLOCAL=機能1, 言語コード

または、言語のコンマ区切りリストを指定することもできます。

ADDLOCAL=機能 1, 言語コード 1, 言語コード 2

言語コードを使用して、言語モジュールを指定できます。



本ソフトウェアの一部のエディションには、本項に記載されている特定の言語が含まれていません。



コマンドラインで **ADDLOCAL** プロパティを使用して言語のみを指定すると、他のすべての製品機能が除外されます。

ADDLOCAL プロパティを **REMOVE** と共に使用して、すべての機能をインストールし、特定の言語を除外することを検討してください。

ADDLOCAL=ALL REMOVE=言語コード1, 言語コード2

言語コードでは大文字と小文字が区別されます。

言語コードによるUIモジュールの指定

言語モジュールには、ソフトウェアUIが含まれます。複数の言語モジュールをインストールすることで、ソフトウェアUIの言語を変更する機能である動的言語切り替えを有効にできます。

次の表に、ソフトウェアで使用可能な言語モジュールと、それに対応する言語コードを示します。

言語モジュール	言語コード
ポルトガル語(ブラジル)	BR
中国語(簡体字)	CS
中国語(繁体字)	CT
チェコ語	CZ
オランダ語	NL
英語	EN
フランス語	FR
ドイツ語	DE
イタリア語	IT
日本語	JP
ポーランド語	PL
ロシア語	RU
スペイン語	ES
スウェーデン語	SV



既定では、ライティングツールは使用可能なすべての言語に自動的にインストールされます。

ワークスペースの理解

このソフトウェアは、CorelDRAWおよびCorel PHOTO-PAINTで使用するワークスペースをインストールします。

インストール済みの CorelDRAW ワークスペース

CorelDRAW の既定のワークスペースは、ツールとコントロールをより直感的に配置できるように設計されています。既定設定は、CorelDRAW Graphics Suite 2024\Draw\UIConfig フォルダーにある DrawUI.xml に含まれています。

さらに、CorelDRAW の次のワークスペースが CorelDRAW Graphics Suite 2024\Draw\Workspace にインストールされます。

- illustration.cdws — 本の表紙のデザイン、雑誌の増刊、絵コンテ、その他の種類のイラストを作成するために設計されています
- illustrator.cdws — Adobe Illustrator ユーザー向けに設計されています。
- lite.cdws — これから始める新規ユーザーに最適
- PageLayout.cdws — 名刺、ブランディング資料、製品パッケージ、または複数ページのドキュメントのレイアウトを作成するユーザー向けに最適化されています
- Default(TM).cdws — 合理化されたユーザー インターフェイス (UI) で、ユーザーがタブレットを使用するときに使用する可能性が高いツールとコマンドのみが表示されます。

Corel PHOTO-PAINTワークスペースのインストール

Corel PHOTO-PAINT の既定のワークスペースは、ツールとコントロールをより直感的に配置できるように設計されています。既定設定は、CorelDRAW Graphics Suite 2024\PHOTO-PAINT\UIConfig フォルダーにある PHOTO-PAINTUI.xml に含まれています。さらに、CorelDRAW Graphics Suite 2024\PHOTO-PAINT\Workspace フォルダーにはフォルダー PHOTO-PAINT の次のワークスペースがインストールされています。

- lite.cdws — これから始める新規ユーザーに最適
- photoshop.cdws — Adobe Photoshop ユーザー向けに設計
- Default(TM).cdws — 合理化されたユーザー インターフェイス (UI) で、ユーザーがタブレットを使用するときに使用する可能性が高いツールとコマンドのみが表示されます。

カスタム ワークスペース

CDWS (CorelDRAW Workspace) ファイルを変更することで、使用可能なすべてのワークスペースをカスタマイズできます。また、CorelDRAW または Corel PHOTO-PAINT 内からカスタム ワークスペースを作成したり、既定のワークスペースをカスタマイズしたりすることもできます。

CorelDRAW Graphics Suite では、カスタマイズしたワークスペースや、インストール時に作成した新しいワークスペースを展開できます。また、カスタムの既定のワークスペースを展開することもできます。

インストールでカスタムワークスペースを展開するには

1. サーバーイメージを作成します。詳細については、「[段階2:サーバーイメージの作成](#)」を参照ください。
2. サーバーイメージに追加するカスタムワークスペースを作成します。
カスタムワークスペースを作成するには、CorelDRAW または Corel PHOTO-PAINT をローカルユーザーとして起動する必要があります。ワークスペースを作成およびエクスポートする方法については、ヘルプトピック「ワークスペースの作成」(ヘルプ > 製品ヘルプ)を参照ください。
3. ワークステーションに CorelDRAW Graphics Suite をインストールし、ローカルユーザーとしてログインします。
4. カスタムワークスペースファイルをサーバーイメージ内の対応するワークスペースフォルダーにコピーし、既存のワークスペースファイルを削除しないようにします。
MSI\Program files 64\Corel\CorelDRAW Graphics Suite 2024\Draw\Workspace MSIs\Program files 64\Corel\CorelDRAW Graphics Suite 2024\PHOTO-PAINT\Workspace
5. サーバーイメージを配布します。詳細については、「[段階3:ソフトウェアのインストール](#)」を参照ください。ユーザーは、アプリケーションを起動した後、カスタムワークスペースにアクセスできます。

カスタムの既定のワークスペースをインストールと共に展開するには

CorelDRAW と Corel PHOTO-PAINT _default.cdws の既定のワークスペース ファイルは、アプリケーションの初回起動時に作成されます。既定のワークスペースをカスタマイズし、他のカスタムワークスペースを展開する方法と同様に展開できます。

1. ワークステーションに CorelDRAW Graphics Suite をインストールし、ローカルユーザーとしてログインします。
2. CorelDRAW または Corel PHOTO-PAINT を起動し、ワークスペースをカスタマイズします。
3. それぞれのユーザー フォルダーから _default.cdws ファイルをコピーします。
C:\Users\[ユーザー名]\AppData\Roaming\Corel\CorelDRAW Graphics Suite 2024\Draw\Workspace C:\Users\[ユーザー名]\AppData\Roaming\Corel\CorelDRAW Graphics Suite 2024\PHOTO-PAINT\Workspace
4. 「[インストールでカスタムワークスペースを展開するには](#)」の手順3と4にしたがいます。



ソフトウェアの展開後にカスタムワークスペースを追加する場合は、次のコマンドラインを使用して、各ワークステーションインストールを修復する必要があります。

```
<AdminImagePath>\Setup.exe REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=oums /qn
```



新しいカスタム ワークスペースにアクセスするには、ユーザーは F8 キーを押しながらアプリケーションを再起動する必要があります。

MSI ファイルの操作

セットアップフォルダーに格納されるセットアップ用のメインの Microsoft Windows インストーラー (MSI) ファイル

(\x64\MSIs\Setup_x64.msisetup.msi) には、ソフトウェアの主な機能、レジストリ キー、フォルダー、およびショートカットのデータベースが含まれています。

サーバーイメージには、メインセットアップMSIファイルのコピー(ワークステーションへの展開用に変更できるMSIテーブル)が含まれています。

ソフトウェアのさまざまなコンポーネントは、追加のMSIファイルに保存されます。これらのMSIファイルの中には、セットアップに必要なものもあれば、ソフトウェアのオプション機能を表すものもあります。

セットアップファイル

Setup_x64.msisetup.msiに加えて、セットアップには、インストールを実行するための追加の MSI ファイルが必要です:

x64\ICA_x64.msiICA.msi

言語モジュール

セットアップには少なくとも1つの言語モジュールが必要で、MSI ファイルはインストール ディスクの x64\msis (64-bit) に保存されます。言語使用可能なモジュールは、ソフトウェアの各エディションによって異なります。

言語モジュール	MSI ファイル
ポルトガル語(ブラジル)	BR_x64.msi
中国語(簡体字)	CS_x64.msi
中国語(繁体字)	CT_x64.msi
チェコ語	CZ_x64.msi
オランダ語	NL_x64.msi
英語	EN_x64.msi
フランス語	FR_x64.msi
ドイツ語	DE_x64.msi
イタリア語	IT_x64.msi
日本語	JP_x64.msi
ポーランド語	PL_x64.msi
ロシア語	RU_x64.msi
スペイン語	ES_x64.msi
スウェーデン語	SV_x64.msi
トルコ語	TR_x64.msi

プログラム

ソフトウェアに付属するプログラムをインストールするには、インストールディスクの X:\x64\MSI にある次の MSI ファイルを使用します。

プログラム	MSI ファイル
CAPTURE	Capture_x64.msi
Corel Font Manager	FontManager_x64.msi
CorelDRAW	Draw_x64.msi
Corel PHOTO-PAINT	PHOTO-PAINT_x64.msi

機能

ソフトウェアのさまざまなコンポーネントをインストールするには、CorelDRAW Graphics Suite の X:\x64\MSIs に保存されている追加の MSI ファイル、ソフトウェアの ISO ファイル、またはサーバーイメージの \MSIs フォルダーを使用します。これらのファイルには、次のものが含まれます。

機能	MSI ファイル
Ghostscript 一般公衆利用許諾契約書 (EPS および PostScript インポート用)	Ghostscript.msi
Microsoft Visual Basic for Applications (VBA)	\msis\vba\vba71.msi
Windows シェル拡張機能	ShellExt.msi



カスタマイズされたサーバーイメージを作成することで、セットアップからオプションの MSI ファイルを除外できます。MSI ファイルを除外すると、対応する機能がインストールされなくなります。

ローカルヘルプ

CorelDRAW、Corel PHOTO-PAINT、Corel Font Manager、CAPTURE、および Corel BARCODE WIZARD のローカルヘルプをインストールするには、CorelDRAW Graphics Suite 2024 の X:\x64\MSIs、ソフトウェア ISO ファイル、またはサーバーイメージの \MSIs フォルダーに保存されている Documentaton_x64.msi を使用します。

ローカルヘルプは、ワークステーションの次のヘルプフォルダーにインストールされます。

X:\Program Files\Corel\CorelDRAW Graphics Suite 2024\Help

レジストリキーの操作

サーバーイメージを作成したら、ワークステーションに展開するためのレジストリキーを編集できます。これにより、ソフトウェアの個々のワークステーションインストールのレジストリキーを手動で構成する必要がなくなります。

動的言語切り替えのセットアップ

動的な言語切り替えにより、インストール中とインストール後の両方でユーザーインターフェイスの言語を変更できます。この機能を使用するには、ソフトウェア用の複数の言語モジュール(目的のユーザーインターフェイス言語ごとに1つ)をインストールする必要があります(「言語コードによる UIモジュールの指定」を参照ください)。実装できる言語の選択は、購入したライセンスによって異なります。

動的言語切り替えには、次の2セットのレジストリ設定が必要です。

- ワークステーション設定
- 現在のユーザー設定

ワークステーションの設定

ワークステーションの設定は、すべてのユーザーに影響します。各ワークステーションのレジストリ設定は次のとおりです。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Corel\ CorelDRAW\ 25.0\Languages
```

このキーの中には、使用可能な言語を表す3文字のコードである言語キーがあります。これらの言語キーはセットアップによって配置されるため、介入は必要ありません。ここに示されているのは(参照用のみ)、残りのコンポーネントで使用可能な言語の3文字のコードです。

言語	コード
ポルトガル語(ブラジル)	PTB
中国語(簡体字)	CHS
中国語(繁体字)	CHT
チェコ語	CSY
オランダ語	NLD
英語	ENU
フランス語	FRA
ドイツ語	DEU
イタリア語	ITA
日本語	JPN
ポーランド語	PLK
ロシア語	RUS
スペイン語	ESN
スウェーデン語	SVE
トルコ語	TRK

各言語キーの下には、次のレジストリ設定があります。

- DirName — 言語固有のファイルのフォルダーの名前を *InstallationPath\Languages* を基準にして指定します。
- UIName — スタートアップ ダイアログ ボックスと [ツール] > [オプション] > [グローバル] ダイアログ ボックス ([全般] ページ) に表示する名前を指定します。

現在のユーザー設定

現在の各ユーザーのレジストリ設定は次のとおりです。

```
HKEY_CURRENT_USER\Software\Coreel\CoreelDRAW\25.0
```

UILang 設定は、アプリケーションを実行するユーザーを決定できないため、セットアップによって初期化されません。ユーザーがアプリケーションを1回実行すると、この設定は、次の場所にあるユーザー指定の言語キーに対応する3文字のコードに変更されます。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Coreel\CoreelDRAW\25.0\Languages
```

オフラインで利用できるようにコンテンツを構成する

Corel Content Exchange (以前のバージョンのスイートからアクセス可能なコンテンツ用のオンラインストレージ) は使用できなくなりました。ユーザーは、オンラインモードで作業しているときに、よろこ画面の [詳細を取得] ページからコンテンツパックをダウンロードできます。ただし、作業を容易にするために、ネットワークドライブでコンテンツを利用できるようにすることをおすすめします。

資格証明書のメールには、追加コンテンツを含む共有ドライブにリンクするURLが記載されており、ダウンロードできます。追加のコンテンツを目的の場所に解凍した後、CorelDRAW 内からさまざまなコンテンツフォルダーへのエイリアスを作成できます。エイリアスを作成すると、データベース・ファイルが作成されます。ユーザーが追加コンテンツを簡単に見つけて検索できるようにするには、このデータベースファイルをワークステーションに展開する必要があります。



抽出されるコンテンツは 4.87 GB です。

ダウンロード場所にアクセスするには、インターネットアクセスが必要です。

コンテンツを展開するには

1. すべてのワークステーションで使用できるようにするサーバーで、メイン コンテンツ フォルダーを作成し、Corel Content という名前を付けます。
2. 資格証明書のメールに記載されているコンテンツURLにしたがいます。アーカイブファイルには、アプリケーション、塗りつぶし、フォント、画像、テンプレートの5つがあります。画像 フォルダーには、クリップアートと写真が含まれており、テーマごとに個別のフォルダーに整理されています。
3. 解凍ツールを使用して、手順1で作成したフォルダーにアーカイブ ファイルを個別のフォルダーに抽出します。



すべてのzipファイルがダウンロードされ、解凍されると、次のフォルダーが表示されます。

- Applications
- Fills

- Fonts
- Images
- Templates

コンテンツがサーバー上で使用可能になると、ユーザーはフォルダーのエイリアスを作成して、CorelDRAWの[アセット]ドッキングウィンドウ(旧称[コンテンツの接続]ドッキングウィンドウ)、塗りつぶしピッカーと透明ピッカー、および[テンプレートから新規作成]ダイアログボックス。ただし、ユーザーが追加のコンテンツに簡単にアクセスできるように、エイリアスを自分で作成することをおすすめします。

Images フォルダー内のサブフォルダーへのエイリアスを作成するには

1. 次のいずれかの操作を行います。
 - Windows では、[ウィンドウ] > [ドッキングウィンドウ] > [アセット] をクリックします。
 - macOS では、[ウィンドウ] > [インスペクター] > [アセット] を選択します。
2. [アセット]ドッキングウィンドウ(Windows)または[アセット]インスペクター(macOS)で、[検索]ボックスの下にある[ローカルおよびネットワークアセット]ボタンをクリックします。
3. [コンテンツソースの選択]リストボックスを開き、[新規追加]をクリックします。
4. [エイリアスを作成]をクリックします。
5. [コンテンツライブラリの検索]ダイアログボックスで、サーバー上にある Images フォルダー内のサブフォルダーを参照します。
6. 「フォルダーの選択」をクリックします。

手順3から5を繰り返して、Images フォルダー内の他のサブフォルダーへのエイリアスを作成します。



Images フォルダーのエイリアスを作成することもできます。ただし、すべての画像のサムネイルを生成するには時間がかかることに注意してください。そのため、サブフォルダーにエイリアスを作成することをおすすめします。

塗りつぶしフォルダーのエイリアスを作成するには

1. CorelDRAW で、[プロパティ]ドッキングウィンドウ(ウィンドウ>[ドッキングウィンドウ]>[プロパティ])。
2. 塗りつぶしライブラリの検索ダイアログボックスで、コンテンツソースの選択リストボックスを開き、「新規追加」をクリックします。
3. [エイリアスを作成]をクリックします。
4. [Locate fills library]ダイアログボックスで、サーバー上にある[Fills]フォルダーを参照します。
5. 「フォルダーを選択」をクリックします。

手順2から5を繰り返して、Fills フォルダー内のサブフォルダーへのエイリアスを作成します。

Templates フォルダーのエイリアスを作成するには

1. CorelDRAW で、[ファイル] > [テンプレートから新規作成] をクリックします。
2. [テンプレートから新規作成]ダイアログボックスで、[コンテンツソースの選択]リストボックスを開き、[新規追加]をクリックします。

3. [エイリアスを作成] をクリックします。
4. [テンプレート ライブラリの検索] ダイアログ ボックスで、サーバー上にある [テンプレート] フォルダーを参照します。
5. 「フォルダーを選択」 をクリックします。

手順2から5を繰り返して、Templates フォルダー内のサブフォルダーへのエイリアスを作成します。



会社で作成したコンテンツ (塗りつぶし、テンプレート、画像) をワークステーションと共有するには、CorelDRAW 内からネットワーク フォルダーのエイリアスを作成するのと同じ方法を使用できます。

コンテンツ データベース ファイルを展開する

エイリアスを作成すると、単純なデータベース・ファイルが生成されます。このファイルは UserCollections.db と呼ばれ、次の場所にあります。

- (Windows) AppData\Roaming\Corel\Databases\Assets V1.0
- (macOS) ユーザー ライブラリの Application Support/Corel/Databases/Assets V1.0

コンテンツ データベース ファイルをワークステーションに展開すると、ユーザーはエイリアス フォルダーからコンテンツを検索して使用できるようになります。

セットアップファイルセットのカスタマイズ

x64 フォルダーにあるメイン構成ファイル Setup.xmlには、セットアップに含まれるすべての機能が一覧表示されます。

サーバーイメージを作成すると、Setup.xmlファイルのコピーが組み込まれます。サーバーイメージ上のセットアップファイルセットをカスタマイズする場合は、Setup.xml・ファイルを編集して、必要な変更を反映させる必要があります。

Setup.xmlを理解する

Setup.xml ファイルには、主に 4 種類のノードが含まれています。これら 4つのノードを理解したら、Setup.xml ファイルを変更して、カスタマイズされたサーバーイメージを作成できます。

<Msi/>ノード

各 <Msi/> ノードは、実行可能 (EXE) ファイル、自己解凍型 ZIP ファイル、他の MSI ファイルをバンドル (またはチェーン) する MSI ファイルなどのメインセットアップファイルを指定します。

たとえば、次の変更を行うことで、インストールから Ghostscript を除外できます。

```
<!--Msi productcode="Ghostscript"  
file="msis\Ghostscript.msi" cmdline="ALLUSERS=1"  
ADDLOCAL=ALL" adminsupport="0" condition="GPL=1" progresstext="Str.ProgressText.Common" /-->
```

<Dbm/>ノード

各 <Dbm/> ノードは、<Msi/> ノードのコンポーネント (通常は MSI ファイル) を指定します。<Dbm/> ノードは、以下の構造をしています。

GUID は関連する製品コードで、MSI は MSI ファイルのパスとファイル名です。

```
<Dbm productcode="{GUID}" file="MSI" />
```



一部の <Dbm/> ノードでも条件が必要です。

指定した MSI ファイルに MST ファイルを適用する場合は、次の構文を使用できます(MST ファイルと MSI ファイルが同じフォルダーにある場合、MST は MST ファイルのファイル名、MST ファイルと MSI ファイルが別々のフォルダーにある場合は、MST は MST ファイルのパスとファイル名です)。

```
<Dbm productcode="{GUID}" file="MSI"
cmdline="TRANSFORMS=MST"
progresstext="Str.ProgressText.name" />
```

<Feature/>ノード

各 <Feature/> ノードは、MSI ファイルに関連付けられている機能を指定します。<Feature/> ノードの形式は次のとおりです。は MSI ファイルの名前で、feature は関連する機能の名前です。

```
<Feature name="Str.Feature.name" desc="Str.Feature.name
Desc" property="feature">
```



一部の <Feature/> ノードにはサブノードがあります。

使用可能な機能のリストについては、「[機能のカスタムセットの展開](#)」を参照ください。

<Property/>ノード

各 <Property/> ノードはプロパティを指定します。<Property/> ノードには次の構造があり、property はパブリック プロパティの名前、value はその値です。

```
<Property name="property" value="value" />
```



使用可能なパブリックプロパティのリストについては、「[パブリックプロパティの使用](#)」を参照ください。

カスタマイズされたファイルセットを使用したサーバーイメージの作成

Setup.xml を使用して、カスタマイズされたファイルセットでサーバーイメージを作成できます。

カスタマイズされたファイルセットを使用してサーバーイメージを作成するには

1. サーバーイメージを新しい場所にコピーします。
2. 必要な言語モジュール MSI ファイルをサーバー イメージに追加します。
3. Setup.xmlを編集して、ファイルセットに加えた内容を反映します。
 - 新しいセットアップファイルごとに <Msi/> ノードを追加します。
 - 新しい言語モジュール MSI ファイルごとに <Dbm/> ノードを追加します。
 - 新しい言語モジュール MSI ファイルごとに次の <Property/> ノードを追加します (\$\$ は言語)。

```
<Property name="Include.$$" value="1" />
```

4. Setup.xmlを編集して、ファイルセットから行った削除を反映します。
 - 削除したセットアップファイルごとに、対応する <Msi/> ノードを削除します。
 - 削除した各 MSI ファイルに対応する <Dbm/> ノードを削除します。
 - 削除した各 MSI ファイルに対応する <Feature/> ノードとサブノードを削除します。
 - 対応する <Property/> ノードの値を変更して調整します。

たとえば、複数言語の設定から単一言語の設定を作成するとします。ファイルセットの変更をSetup.xmlファイルに記録するには、除去された言語モジュールごとに、対応する <Dbm/> ノードと <Feature/> ノードを除去する必要があります。次に、各 <Property/> ノードを Include.\$\$ を値 0 に設定しますに設定する必要があります。(\$\$ は削除された言語モジュールです)。ShowApplicationLanguageSelector の <Property/> ノードは、自動的に値 0 に設定されます。

カスタマイズされたインストール設定の展開

ワークステーションへのソフトウェアのインストールに使用する設定を変更するには、サーバーイメージのルートに保存されている Persist.xml ファイルを使用します。

Persist.xml の各エントリは、ソフトウェアのパブリックプロパティに対応しています(「[パブリックプロパティの使用](#)」を参照ください)。各エントリの構文は次のとおりです。

```
<Property name="property" value="value" />
```

Persist.xml 内の既存のエントリの値を変更するか、新しいエントリを追加することで、そのサーバーイメージから展開されるインストール設定をカスタマイズできます。この展開メント方法は、別のサーバーイメージを作成したり、コマンドラインをカスタマイズしたりサーバーイメージ優れた方法を提供します。

変更を有効にするには、ワークステーションにソフトウェアをインストールする前に Persist.xml を変更する必要があります。

実施例1

次の Persist.xml エントリを使用して、自動ソフトウェア更新を有効にするように指定できます。

```
<Property name="ALLOW_PRODUCTUPDATES" value="1" />
```

このエントリの値を「1」から「2」に変更し、この変更を Persist.xml に保存すると、ワークステーションインストールの自動更新を無効にできます。

このエントリの値を "1" から "0" に変更し、この変更を Persist.xml に保存すると、更新プログラムを確認し、更新プログラムをインストールするタイミングをユーザーが選択できるようになります。

実施例2

次の Persist.xml エントリを使用して、ProfileID を指定し、アカウント資格情報をサーバーイメージに追加できます。

```
<Property name="PROFILEID" value="XXXXXXX" />
```

ProfileID の値を指定すると、インストール後にすべてのワークステーションがアカウントに自動的にサインインするようになります。ProfileID へのアクセスについては、[「ProfileID」を参照ください](#)。

実施例3

次の Persist.xml エントリを使用して、ユーザーがようこそ画面機能を利用できるようにできます。

```
<Property name="WELCOMESCREENONLINE" value="on" />
```

ようこそ画面は、インターネット機能が有効になっていないと使用できないことに注意してください。

実施例4

以下の Persist.xml エントリを使用して、インストールのシリアル番号を指定できます。

```
<Property name="SERIALNUMBER" value="シリアル番号" />
```

「シリアル番号」値を変更することにより、ワークステーションのインストールに別のシリアル番号を指定できます。詳細については、[「SERIALNUMBER」を参照ください](#)。



付録 B: ソフトウェアの認証

サーバーイメージの作成時に Corel.com アカウント資格情報を入力してサインインした場合、すべてのユーザーが自動的にサインインし、インターネットベースの機能にアクセスできます。

更新プログラムやインターネットベースの機能にアクセスするには、ワークステーションのソフトウェア認証が必要です。この付録では、ソフトウェア認証中に交換される情報と、認証を成功させるために何が必要かについて学習します。

この付録の内容

- 「[認証時の情報交換](#)」
- 「[認証の要件](#)」

認証時の情報交換

CorelDRAW Graphics Suite アプリケーションがワークステーションではじめて起動されたとき、ソフトウェアを認証する Corel サーバーには、次の情報が送信されます。

- corel.com アカウントを識別する情報 (電子メールアドレスとパスワード、または ProfileID のいずれか)。ProfileID へのアクセスについては、「[ProfileID](#)」を参照ください。
- アプリケーションが起動されたワークステーションを識別する情報 (コンピューターやハードウェアの署名や名前など)。
- 製品ファミリ (CorelDRAW Graphics Suite の CDGS や CorelDRAW Technical Suite の CDTs など)、製品のバージョン、言語、および製品のシリアル番号を指定する製品 ID。
- ライセンスの状態に関する情報。

Corel サーバーは、QR コードなどのオンライン機能を有効にする機能識別子を返します。

認証の要件

企業ネットワークでソフトウェア認証を成功させるには、Corel 認証サーバーのアドレスである <https://iws.corel.com> へのアクセスを

許可する必要があります。ポート番号は 443 で、次の特定のエンドポイントがあります。

- <https://iws.corel.com/ipmws/services/Subscription>

Corel 認証サーバーへのアクセスを許可するには、プロキシまたはファイアウォールソフトウェアのセキュリティ設定の変更が必要な場合があります。

付録 C: FAQ

このセクションには、よく寄せられる質問に対する回答が含まれています。

なぜ Corel.com アカウントが必要なのか

オンラインアクセスでサーバーイメージを作成し、製品を認証するには、Corel.com アカウントが必要です。詳細については、「Corel.com アカウント」を参照ください。

Corel.com アカウントの資格情報が機能しなくなりました

製品に関連付けられている Corel.com アカウントを必ず使用してください。管理インストールを最初に実行したときに使用した資格情報を入力する必要があります。

なぜ製品を認証する必要があるのか

更新プログラムやインターネットベースの機能へのアクセスをユーザーに付与するには、サーバーイメージの作成時にソフトウェアを認証する必要があります。これを行うには、Corel.com アカウントの資格情報でサインインします。認証はワークステーションでも行われますが、これはユーザーのサインインを必要としないサイレントプロセスです。ソフトウェア認証中に交換される情報については、「付録B: ソフトウェアの認証」を参照ください。

一部のインターネット機能へのアクセスのみをユーザーに許可することはできるか

インターネットベースの機能を個別に有効または無効にすることはできません。たとえば、ユーザーがようこそ画面からコンテンツパックをダウンロードすることを許可し、オンラインビデオへのアクセスや QR 機能の使用を禁止することはできません。Windows では、インターネット機能がオフになっている間、ユーザーがクラウドにファイルをアップロードし、他の

ユーザーと共同作業することを許可できます。詳細については、「ALLOW_CORPORATECLOUDFEATURES」を参照ください。

Corel コンテンツへのアクセス権をユーザーに付与するには、どうすればよいか

追加コンテンツは [Get More] ダイアログ ボックスからダウンロードでき、ユーザーがオンライン モードで作業しているときに [よろこ] 画面からアクセスできます。

また、資格証明書の電子メールには、ソフトウェアに付属する Corel コンテンツへのリンクが含まれています。コンテンツをネットワーク ドライブにコピーし、このドライブへのアクセス権をユーザーに付与する必要があります。さらに、コンテンツフォルダーのエイリアスを作成して、塗りつぶしや透明などのコンテンツにソフトウェア内からアクセスできるようにする必要があります。詳細については、「オフラインで利用できるようにコンテンツを構成する」を参照ください。

ワークステーションのユーザーがソフトウェアをオフラインモードで使用できるか

(Windows のみ) はい、長いシリアル番号 (37 文字) のライセンスがあり、このシリアル番号を使用してサーバーイメージを作成すれば可能です。詳細については、「サーバーイメージの設定」を参照ください。

インストールはどこで管理できますか?

サインインとサーバーイメージの作成に使用した Corel.com アカウントからインストールを管理できます。たとえば、アカウントページから特定のワークステーションを削除できます。

サーバーイメージを使用してソフトウェアを展開しましたが、ワークステーションはサインインを求められます。なぜでしょうか。

サインインは、次のいずれかの理由で必要になる場合があります。

- ソフトウェアをオンラインモードで展開するためのサーバーイメージを作成したときに、Corel.com・アカウントの資格情報を使用してサインインしました。ただし、ユーザーが最初に製品を起動したときにワークステーションはオンラインではありませんでした。この場合、ワークステーションはソフトウェアを認証するために、iws.corel.com である Corel 認証サーバーへのアクセスを試みます。
- corel.com アカウントの[アカウント]ページからワークステーションを削除しました。ワークステーションを削除すると、自動的にサインインできなくなります。ワークステーションのユーザーは、一度サインインする必要があります。
- サインイン後、ワークステーションが長時間オフラインになっている場合は、製品権限が変更されていないか期限切れになっていることを確認するために、ソフトウェア認証が必要です。

© 2024 Corel Corporation. All rights reserved.

CorelDRAW® Graphics Suite 2024 導入ガイド

Corel、CorelDRAW、CorelDRAW バルーン ロゴ、AfterShot、CAPTURE、CONNECT、CorelDRAW.app、Corel Font Manager、Corel PHOTO-PAINT、および WinZip は、カナダ、米国およびその他の国における Corel Corporation の商標または登録商標です。Apple、Mac、macOS は、Apple Inc. の商標です。記載されているその他すべての会社名、製品名、サービス名、ロゴ、ブランド、および登録商標または未登録商標は、識別目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の独占的財産です。第三者に関連するブランド、名前、ロゴ、その他の情報、画像、資料の使用は、推奨を意味するものではありません。当社は、そのような第三者の情報、画像、資料、マーク、および他者の名前に対するいかなる所有権も放棄します。特許に関するすべての通知と情報については、www.corel.com/patents をご覧ください。

オリジナルのサンプルアートワークは第三者によって提供され、そのような当事者と別段の合意がない限り、許可を得て使用および/または変更されます。

製品仕様、価格、パッケージ、技術サポート、および情報(以下「仕様」)は、小売英語版のみを参照しています。他のすべてのバージョン(他の言語バージョンを含む)の仕様は異なる場合があります。